



法人よつば たより

No.20

発行：社会福祉法人よつば ☎04-7199-7931
 発行日：2023年 1月 1日 新年号
 ホームページ：http://www.kashiwa-yotsuba.jp

☆ご挨拶



・法人よつば設立二十周年として、「引きこもり本人と家族への支援」講演会を開催しました

昨年の十一月二日に、柏市アミューゼ柏ホールを会場に、市川市のNPOニュースタート事務局の久世氏をゲストに迎えて、引きこもり状態にある方をどのようにして再び社会に踏み出す支援をしているのかの実践報告を伺いました。

・女性のためのグループホームを昨年の十二月から開設

柏市逆井地区（逆井駅から徒歩五分）に、定員五名の準備を進めて来ました。夜勤者も配置しますので、安心です。すでに見学と体験利用も始めています。1Kタイプの個室です。問い合わせを歓迎します。問い合わせ先は、沼南荘（〇四・七一九三・五〇三二）まで。

☆就労継続支援B型青い鳥の「キッチンよつば」で働きませんか

流山市の初石公民館内に、障害者の方が働く「キッチンよつば」という、軽食と喫茶の店があります。すでに十年以上の実績のあるお店です。ホール接客や調理補助

や配膳や皿洗いなどを通じて、社会参加並びにコミュニケーションの練習の場となっております。午前と午後の勤務の選択もできます。見学も歓迎します。問い合わせは青い鳥（〇四・七一九九・八二一九）までお願いします。

☆障害者の体験や思い

・柏市在住 AFさん

私は現在五十歳になりました。うつ病が最初に発症したのは、二十歳を過ぎた頃です。その時専門学校で学生でした。機械が好きでしたので、製造業の仕事に就きたいと考えていました。願いが叶って自動車工場に就職できましたが、残業が多くまた同僚との人間関係も神経を使い、疲れと朝起きられない日が増えて、休職しました。休職の間、精神科クリニックに通い、薬とデイケアで復帰を目指しました。一年半後に職場復帰をしましたが、一年後に再発しました。職場に迷惑をかけたくなかったので、その時退職しました。

しを続けました。いつまでも家族に負担をかけられなかったので、警備の仕事を探して、人間関係の薄い所に就職しました。昼間の仕事もありましたが、夜の仕事もあって、十分な睡眠がとれず、うつ病がまた再発しました。調子が良い時は薬を飲まず、調子が悪い時はクリニックで薬をもらう生活をしていましたが、今思うと良くなかったと思います。うつ病は治ると考えていたので、考えが甘かったのです。

再度、精神科クリニックに通い、まじめに治療を受け、先生に相談しました。その中で、先生から障害者枠で再就職をしてみてもどうかと勧められました。今度は病気をオープンにして、無理しすぎないように、ハローワークを介して、会社の人にも理解してもらえようという事前に話すことを助けてもらいました。今は物流管理の仕事をしています。随分遠回りをしましたが、うつ病を甘く見ていたこと、まじめに通院していたら、もう少し早く、今の自分に成れたのかとも思います。失った時間は取り戻せませんが、それはそれです。

☆家族の思いと願い



・流山市在住 AGさん

流山よつば会の学びで、精神障害者の家族は、子どもの病気を通じて家族自身も、うつ病や不眠症になる人が多い、それほど精神的につらさを抱えると学びました。

実は私自身も、睡眠剤を用いないと眠れません。子どもが統合失調症を発症したのは二十歳代ですが、もう二十年以上、子どものことを心配していることになりました。最初は、きつと治ると考えていましたが、次第に治らないかもしれないと覚悟してきました。今では正直、治ることはあきらめ、穏やかに過ごしてくれることを願っています。この病気は自己責任ではなく、だれがなるかは分からないし、なってもおかしくない病気だと理解しています。

よつば家族会の子どものうち、半数以上がほほひきこもり状態だとアンケートで分かりましたが、我が家もその一人です。気が向いたときは外出したり、近くの店には出かけますが、人に会うことを嫌がりません。本人に言わせれば、人に会うのはとても疲れるそうです。訪問看護の方やヘルパーさんを家

に入れることも拒否します。何度か説得しましたが、応じてくれません。親亡き後のことを考えると、社会との繋がりを何か持つておいてほしいと話しますが、まだ必要ないと言います。

以前は、暴言を吐いたり、私たちに手を挙げることもありましたが、今はそうしてことは収まっていますので、プレッシャーをかけなければ、家の中はそれなりに落ち着いてはいます。でもやっぱり心配です。私たち家族もいつまでも元気ではないません。病気になったり、高齢者施設に入れば、子どもは自分でやって行けるでしょうか。家のことはほとんど何もしていません。一人暮らしに備えて、掃除や料理や洗濯ぐらいは出来るようになってほしいと話していますが、本人はどこ吹く風の様子です。まだ忍耐です。

☆発達障害者の「家族会」と

「当事者会」のご案内

発達障害者の家族会は、会場は流山市ですが、参加者は隣接市の柏市や我孫子市、野田市などからも参加されています。毎回、近況報告とともに、情報提供や本や記事の紹介、マスコミなどでの紹介

などを取りあげています。家族自身も暗中模索しながら、学びと経験を積み重ねている状態です。当事者会では、自分の思いを話す場です。周囲の人たちが発達障害を理解できていないことがあつて、すれ違いや誤解も生まれますので、どんな思いでいるかを話す場となっています。

※集まりの紹介



- ・家族会 毎月第二土曜日朝十時から、初石公民館にて
- ・当事者会 毎月第四日曜日午後一時から、初石公民館にて
- ・問い合わせ 勝本まで 090-3696-1589

☆法人の事業案内

- ・就労継続A型 かるのこ 雇用契約に基づき、千葉県の最低賃金を保証します。お弁当を作る仕事です。毎日百六十〜百七十食作っています。午前中や午後を選択できます。経済的に自立を願う人に向けた職場です。
- ・地域活動支援センターⅢ型「クローバ柏」、柏警察署の近くにあり、毎日のプログラム活動、趣味、就労準備などを行います。自分のペースで利用できる所が利点です。

☆先人の言葉

・アンソニーはリカバリーについて、次のように語る。「回復とは、精神疾患の破局的な影響を乗り越えて、人生の新しい意味と目的を作り出すことでもある。精神疾患からの回復は、病気そのものからの回復以上のものを含んでいる。精神疾患を持つ人は、自らに取り込んでしまった偏見から、治療環境の医学的影響から、自己決定の機会の乏しかったことから、仕事をしたいことがないことへの否定的な影響から、夢破れたことから、回復する必要があるかもしれない。回復はしばしば複雑で時間のかかる過程である。」

・東京大学准教授熊谷氏によれば、「自立とは、依存しないことではない。自立とは、たくさんものことに少しづつ依存できるようにすることである。」

柏部会の案内

日時 一月二十八日(土)

午後一時から

会場 パレット柏C会議室

流山部会の案内

日時 一月二十七日(金)

午前十時から

会場 流山学習センターA101